

令和6年度(2024年度)徳島県指定・令和7年度(2025年度)文部科学省指定 小 学 校 人 権 教 育 研 究 発 表 会 第55回 徳 島 県 小 学 校 人 権 教 育 研 究 大 会

＜文部科学省指定研究＞

「つながりを実感し、多様性を認め合う子どもの育成」

＜徳島県小学校人権教育研究会＞

「人権尊重社会の実現を図るため、差別の現実から深く学び、
すべての子どもの自立と自己実現をめざす教育を創造しよう」

～人権尊重の意識を高め、同和問題をはじめ様々な人権問題を解決する
意欲と実践力をもった子どもを育てる～

I 研究の概要

現状の課題

前年度の取組によるアンケートの結果から、多くの児童が友達を思い、差別やいじめは許さないという気持ちをもっていることを理解することができた。また、自尊感情も高くなっているなど、一定の成果を上げることができた。しかし、相手の気持ちを共感的に理解する力の項目では肯定的な割合が低く、困っている友達のために自分が行動できていないと感じている児童がいる。また、学級集団の中での序列化や決め付け、深く考えずに差別的な言葉を発する児童もいる。



課題解決への仮説

様々な人とのつながり、異学年とのつながりをもった仲間づくりに取り組むことで、豊かな感性が育ち、誰かのために考え、行動し、自分の思いが表現できる児童へと成長するのではないか。



研究の目的

多様性を認め合い、互いの共通点や違いを受け止める力、偏見や差別をなくしていこうとする行動力を身に付けさせるとともに、様々な人とつながり、認め合える関係性を構築させる。「自分や自分の大切な人の幸せな生き方」につながることを理解させ、自分にできることを考え、行動できる児童を育成する。

研究の内容

めざす子ども像である「きまりを守る子ども」「常に目標をもち、よりよい自分をめざす子ども」「周りの人も自分も大切にし、誰とでもつながる子ども」の育成につながる人権教育についての研究を進める。

つながりを実感し、多様性を認め合う子どもの育成



- ① つながりを実感し、自己有用感を高める教育活動
- ② 多様性を認め合う人権学習
- ③ 人権が尊重される環境づくり

II 研究の実践

① つながりを実感し、自己有用感を高める教育活動

○異年齢班活動「なかよし会」「なかよし掃除」で協力・認め合い

なかよし会

〈ねらい〉

異年齢集団で楽しく触れ合い、交流することによって、よりよい人間関係を深めることができるようにする。

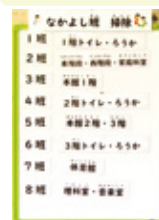
〈進め方〉

- ・毎月第2・4火曜日の朝の活動(8:15～8:35)で、6年生が企画・運営し、8つのなかよし班に分かれて遊びを楽しむ。
- ・遊ぶ内容は、8つ用意し、ローテーションで行う。
- ・児童玄関前の掲示黑板に、活動内容と場所、準備物について記入する。
- ・遊びを終えると、タブレットで振り返りをする。
- ・6年生は、振り返りの結果をもとに、次の活動を工夫する。

なかよし会 計画黑板



なかよし掃除 計画黑板



なかよし掃除 ワークシート



なかよし掃除

〈ねらい〉

異学年で取り組むことにより、上学年はリーダーとしての自覚や自信を高める。下学年は、尊敬の気持ちや成長への願いをもつことができるようにする。

〈進め方〉

- ・毎週火曜日の掃除は、なかよし班に分かれて決められた場所を責任をもってきれいに清掃する。
- ・掃除場所については、児童玄関前に掲示する。
- ・6年生は、事前に役割分担を考えておく。(学年が重ならない)
- ・一生懸命掃除しているキラキラさんを記録しておき、次回発表する。

○児童会活動を通じたリーダーシップの育成

歩く・気(木)付く 歩木「あるき」の活動

〈ねらい〉

児童会において、学校生活の充実と向上を図るための課題(廊下を歩いて通行できない)について、解決するために話し合い、決めた解決方法を実践、振り返ることで、協働してよりよい学校生活をつくっている気持ちをもたせる。

〈進め方〉

- ・課題の実態把握と解決方法の話し合いをする。
- ・廊下を歩こうと意識できる表示を作る。
- ・児童会で、休み時間に「歩こう」と声かけを行う。
- ・クラスごとに自己評価をし、歩木が達成できるとシールを1枚貼る。
- ・シークレットティーチャーが歩けている児童を称賛し、シールを渡す。
- ・朝会で、結果(学年)を発表し、表彰する。(年に2回実施、継続した取組)

歩木評価カード



○PBS(ポジティブ行動支援)を活用した仲間づくり

誰かのために行動できるやさしさあふれる貞光小学校

〈ねらい〉

『誰かのために行動できるやさしさあふれる貞光小学校』を合い言葉に、自分だけが学校生活を楽しむのではなく、互いに思い合って生活することで、自己有用感が高まり、みんなが楽しく過ごせる学校になることをめざす。

〈取組〉

1 学期 あいさつができる

「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」を中心に進める。時と場に応じた相手を意識した挨拶をすることで、様々な人とつながり、よい気持ちを味わう経験をさせるようにする。

2 学期 学校のためによい行動ができる(ありがとう)

自分に対しての「ありがとう」から、一人のためでなく学校がよくなるため、みんなのために行ったことに対しての「ありがとう」の取組をする。

3 学期 誰かのためによい行動ができる

友達や家庭、地域の人など自分が関わる人に対して、その人のことを考えた優しい行動ができるようにする。

1 学期の取組

にこるんの木 あいさつ運動



2 学期の取組



② 多様性を認め合う人権学習

○十六地蔵尊についての学習

〈ねらい〉

太平洋戦争末期、貞光小学校に集団疎開してきた学童が火災に遭い、亡くなってしまった悲惨な出来事を知り、平和な世の中にしていこうとする気持ちを育てる。

〈取組〉

1 学期 南恩加島小学校 6 年生と本校 6 年生が交流。
両校児童で真光寺を訪れ、廻り踊り・交流会を行う。

2 学期 十六地蔵尊法要に向けた活動を開始。
奉納する折り鶴を異年齢集団で作成し、平和学習をする。

3 学期 南恩加島小学校の児童と学年ごとに手紙で交流。
真光寺で十六地蔵尊法要に参加する。平和の鐘を鳴らし、平和を祈る。

平和の鐘



十六地蔵尊



○各学年の取組

赤太字については、下部に写真

1 年生

- ・ 1 分間スピーチタイム
- ・ **きらきらみつけない**
- ・ なかよしタイム



2 年生

- ・ 読み聞かせ
- ・ **あったかツリー活動**
- ・ あったかみつけ大作戦



3 年生

- ・ 係（会社）活動
- ・ **お花をさかせよう**
- ・ いいところスパイ大作戦



4 年生

- ・ **ミニ国会**
- ・ グループ学習
- ・ 係（会社）活動



5 年生

- ・ あいさつ活動
- ・ 朝のスピーチ
- ・ **大願成就ツルギスタ**



6 年生

- ・ 朝のスピーチ
- ・ 今日のキラリさん
- ・ **アウトプットカード**



○体験活動やゲストティーチャーを活用して様々な思いに触れる

地域との交流

- ・ 昔遊び・道具説明…『シルバー学園』
- ・ 地域探検…『ふれあい学習』
『商店』『公共施設』
- ・ オリエンテーリング…『地域ボランティア』
- ・ 読み聞かせ…『たまゆら友の会』

高齢者体験

- ・ 高齢者体験…『社会福祉協議会』
高齢者疑似体験スーツを着用。
- ・ 施設訪問…『コンフォール貞光』
を見学、交流をする。

外国の人との交流

他国の文化や言葉に触れたり、遊んだりして、外国への理解を深める。

インド・ケニアの方…『徳島県国際交流協会』

アイヌについての学習

アイヌ文化の魅力に触れながら、共生や多様性に共生について考える。

『公益財団法人アイヌ民族文化財団』

職業体験

- ・ 木工教室…『つるぎ木材』
- ・ 農業体験…『世界農業遺産地域』
を見学・体験
- ・ 水道・自動車・電気・大工体験…
『テクノスクール』

障がい者体験

- ・ 盲導犬ユーザー…『徳島の盲導犬を育てる会』
- ・ アイマスク体験…『社会福祉協議会』
- ・ 車イス体験…『社会福祉協議会』
- ・ 手話体験…『手話サークルつるぎ』

③ 人権が尊重される環境づくり

○PBS(ポジティブ行動支援)を意識した環境の設定

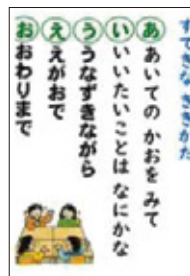
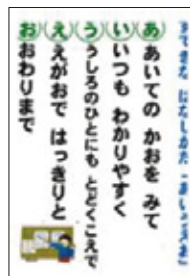
貞光小学校学習スタンダード

〈ねらい〉

みんなで正しい学習スタイルをめざし、共に高め合い、つながる児童を育成する。

〈取組〉

- ・机の中や学習中の机上の整理整頓、次時の準備について視覚化して掲示する。
- ・姿勢や挙手、返事の仕方、学習の流れを統一する。
- ・教室環境の整理整頓をする。
- ・掲示物(話し合い・聞き方・話し方のあいいうえお)を統一し、教室黒板上に貼る。



○教職員の人権意識や人権学習の指導力の向上をめざした教職員研修

〈ねらい〉

全学年の研究授業・授業研究会を計画的に実施し、人権学習の指導方法や改善点を共有し、各学年に応じた人権学習の構築を図る。専門的な知識をもつ大学講師や徳島県人権教育指導員などを活用した校内研修や町内フィールドワークを実施し、「知識的側面」「価値的・態度的側面」「技能的側面」の指導力向上を図る。

〈研修の実際〉

- ・校内研修「ワークショップ 児童の実態について」
- ・校内研修「人権教育に関するリモート研修」鳴門教育大学教職大学院 教授 久我直人さん
- ・校内研修「PBSを活用した特別活動に関する研修」岩倉小学校 教諭 小角聡さん
- ・校内研修「人権教育の進め方・学習指導案について」人権教育課指導主事 武下哲也さん
- ・人権教育啓発講演会「インターネット上の人権侵害」徳島県人権教育指導員 上田託也さん
- ・人権教育啓発講演会「人と人の繋がり大切さ」徳島県人権教育指導員 太田光俊さん
- ・人権教育啓発講演会「あることをないことにしない」大湾昇さん
- ・貞光小学校人権教育フォーラム 徳山富子さん・平野由美子さん・野町孝英さん
- ・つるぎ町内フィールドワーク2日間 つるぎ町役場
- ・校内研修「災害後における子どもの対応」鳴門教育大学特命教授(名誉教授) 阪根健二さん
- ・校内研修「アイヌの文化と学ぶ」アイヌ文化伝承者 藤戸ひろ子さん

○同和問題についての学習の推進

〈ねらい〉

資料「いのちをいただく」を用いた研究授業での共同的な検討や、同和問題に関する体験談を聞くことで、教職員が差別の現実から深く学び、指導力の相互的な向上を図る。



(研究授業「いのちをいただく」)



(中原 サヲ江さんによる講話)

○相談しやすい環境整備

スクールカウンセラーの活用 ～自分の思いが表現できる学校～

〈ねらい〉

人間関係が複雑化し、多様な価値観が混在する現代社会で生きる子どもたちが、安心して生活できるよう、スクールカウンセラーによる心の授業や相談事業の積極的な活用を通して、自分の思いが出せるようにする。

〈教室準備〉

入室しやすくなるよう教室扉に親しみやすいキャラクターのイラストを貼り、教室内をきれいな状態に保っておく。

〈進め方〉

①スクールカウンセラーによる授業

5年生「ストレスについて」

6年生「あたたかい言葉がけ」について考えよう

②スクールカウンセラーとの面談

高学年児童は、一人ずつ順番に面談を受ける。相談や話がある人は、気軽に活用できることを周知する。希望があれば、他の学年や保護者も面談を受けられることを伝える。

Ⅲ 研究の成果と課題

1 研究の成果

- ①異年齢交流を活発にしたことで、自然に触れ合う機会が増えた。
- ②相手との適切な関わり方や距離感が分かり、人間関係の改善が見られた。
- ③様々な人権課題の取組により、生活の中で人権感覚が鋭くなった。
- ④共感的に受け止める感性が育ち、実践力や行動力につながった。
- ⑤学校全体でPBSを推進したことにより、温かな言葉がけが増えてきた。

2 今後の課題

- ①児童の発達段階に応じて、異学年で学び合う場をつくり、豊かな人権感覚の醸成につなげる。
- ②本研究を土台に、高学年が主体となり、児童の意見が反映される活動にしていく。
- ③研究を継続していくために、地域との交流内容の見直しを図り、「協力的な学習」「参加的な学習」「体験的な学習」をさらに推進していく。
- ④人権学習での学びが深まるための教職員研修の方法や時間の確保に努める。